

住環境改善活動を目的とした自治会・町会の選定方法および公団住宅と工場が隣接した地区における騒音実測調査 住民主体の住環境改善活動の促進を目的とした自治会・町会との共同実測と住民意識に関する研究 その1

正会員○菅谷大樹*1 正会員 廣田篤司*2
同 三浦昌生*3

自治会・町会 住民主体 住環境改善
騒音 ヒアリング

1. 研究の目的

本研究は、地区スケールにおいて住民を主体とした実測調査やアンケート調査を通して住民の住環境に対する意識の向上を促すことを目的とする。

研究室がサポート役となり実測調査にもとづく、騒音や空気の汚れなどを視覚的に分かりやすく表現した「住環境マップ」の作成を通じ、住民の住環境に対する意識を高め、住民主体の住環境改善活動を支援する手法を検討する。この住環境改善活動の支援手法の研究を「住快環プロジェクト」と名付け、住環境の実態調査を希望する自治会・町会を募集した。

そこで、対象地区決定までの流れ、住民意識アンケート調査および騒音実測調査について報告する。

2. 対象地区決定までの流れ

図1にケーススタディの流れを示す。本研究において自治会・町会を対象とした。理由は、自治会・町会と協力することで、自治会・町会に加入する各世帯にプロジェクトの告知や、アンケートなどの配布が容易にできるからである。

(1) 自治会・町会募集資料の作成

多くの自治会・町会に広く募集をかけるにあたり、相手にどのような情報が必要か、自分たちにどのような情報が必要かなどを考慮し、住環境実測調査の活動概要、応募用紙などを記載した「自治会・町会募集資料」を作成した。

(2) 自治会・町会の募集

昨年度は、住快環プロジェクトを実施するにあたり、自治会・町会連合会から名簿を入手し、自治会長・町会長宛に直接自治会・町会募集資料を郵送する方法を取った。今年度、同じ方法で名簿を入手することができたのは1880の自治会・町会だった。また、個人情報保護法により自治会・町会連合会が保持している名簿を公開できない場合は、

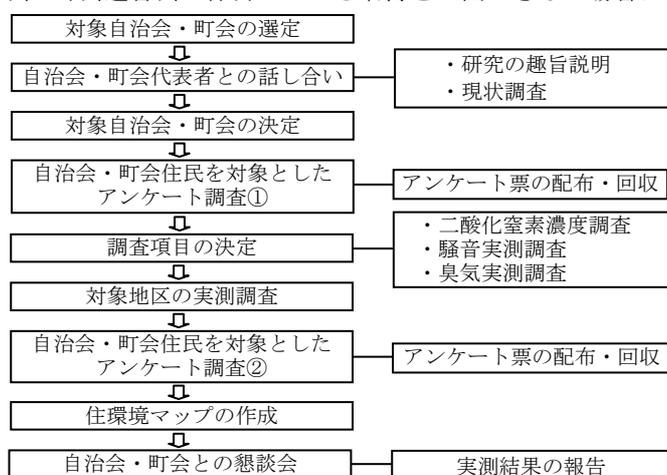


図1 ケーススタディの流れ

自治会・町会連合会から各自治会長・町会長へ資料を送付した。この方法で258の自治会長・町会長へ資料を送付した。

住快環プロジェクトの概要書を合計2138の自治会・町会に郵送し、62の自治会・町会から自治会・町会募集資料の請求があった。さらに自治会・町会募集資料を郵送した結果、19の応募があった。

自治会・町会が自らこのプロジェクトに応募する方法を取ったため、住環境に対して意識の高い自治会・町会と住快環プロジェクトを行えると考えられる。

(3) 対象地区の選定

19の自治会・町会の代表者に対して現地でヒアリング調査を行った。ヒアリング調査の内容は「地区内にどのような住環境問題があるのか」、「このプロジェクトに応募した動機」や「応募は自治会・町会の人たちと話し合いの上で決定したのか」などである。

その後、応募用紙の記入内容とヒアリング調査の結果を総合的に判断し、埼玉県戸田市にある戸田団地自治会地区を対象地区として決定した。戸田団地自治会は、自分たちの身の回りの問題は自分たちで解決することを自治会の目標にしており、住環境改善活動には多くの住民が参加できる点が地区決定の要因となった。この他に今年度研究室では、草加市原町町会、三郷市鷹野東町会、さいたま市南区ラムザ自治会の計4つの自治会・町会と住快環プロジェクトを行うことに決定した。

(4) 対象地区の概要と将来像

図2に戸田団地自治会地区とその周辺を示す。戸田団地自治会は戸田市の北東部に位置し、国道17号線から東に100mの場所に位置する。5~14階建ての8つの集合住宅から成り、自治会に加入している世帯数は417世帯で、加入率は70%である。地区南側に酢を精製する工場が隣接しており、住民から酢のにおいや騒音による苦情がでている。

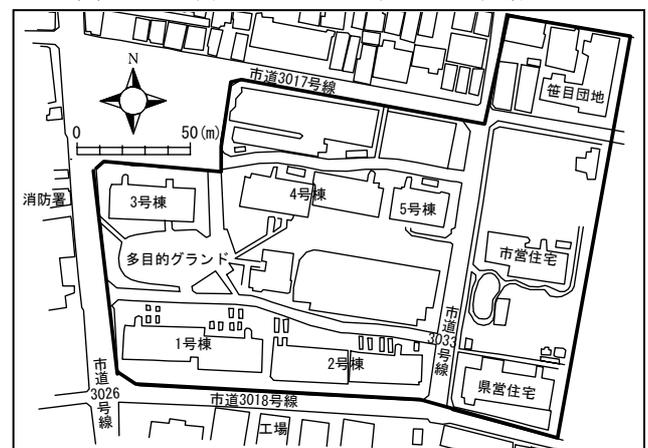


図2 戸田団地自治会地区とその周辺

Selection Method of Residents' Association for Improvement Activity of their Own Living Environment and Field Surveys on the Noise in the District with Apartment Houses Constructed by Japanese Housing Corporation where Factory is Adjacent
A Study on the Promoting for Improvement Activity of their Own Living Environment Based on the Collaborative Survey Data and Residents' Awareness with the Residents' Association Part 1

SUGAYA Daiki, HIROTA Atsushi and MIURA Masao

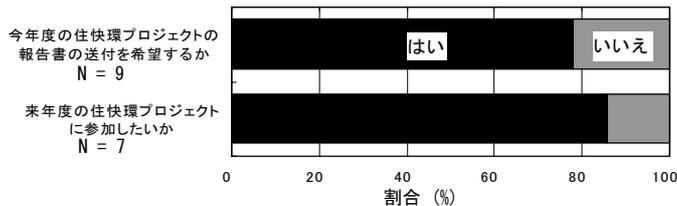


図3 住快環プロジェクトに対する自治会・町会の関心

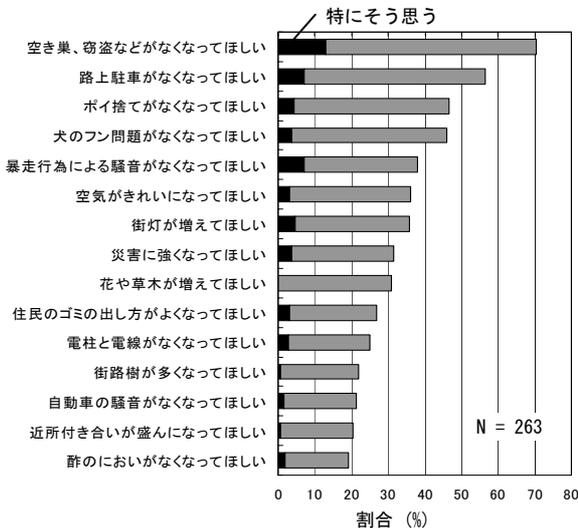


図4 戸田団地自治会地区の将来像

(5) 住快環プロジェクト応募に対するアンケート

今年度、住快環プロジェクトの資料請求をしたが応募に至らなかった43の自治会・町会にアンケートを送付した。図3に住快環プロジェクトに対する自治会・町会の関心を示す。「今年度の住快環プロジェクトの報告書の送付を希望するか」という設問に対して「はい」と答えたのは78%、来年度の住快環プロジェクトに参加したいか」という設問に対して「はい」と答えたのは86%であった。これらの結果から住快環プロジェクトに対する自治会・町会の関心が高いことがわかる。

3. 住民意識アンケート調査

05年11月3日(木)～11月15日(火)にかけて、戸田団地自治会に加入している全417世帯を対象にアンケート調査を行った。回答数は287票で回収率は69%であった。アンケートの回収率を上げるために土曜日、日曜日を2回はさむように期間を設定した。11月2日(水)20時から21時まで研究室と住民が共同でアンケートの製本作業を行い、自治会の配布部を通して各世帯に配布された。製本作業に参加した住民は15名であった。アンケートの回収方法は、住民が自治会の配布部に渡して自治会長に集めるという方法をとった。

図4に戸田団地自治会地区の将来像を示す。質問項目を実測可能な項目以外にも多く設けることにより、今後行う実測候補の項目が住環境の中でどれほど重点的に考えられているかがわかるようにした。1位の「空き巣、窃盗などがなくなってほしい」が多くなっており、特にそう思うも13%と最も多くなっている。中には「団地周辺で窃盗や

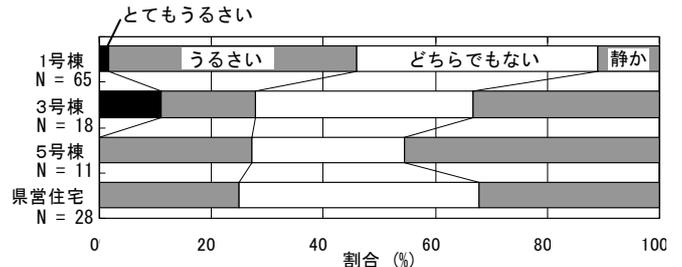


図5 各棟の騒音に対する住民意識

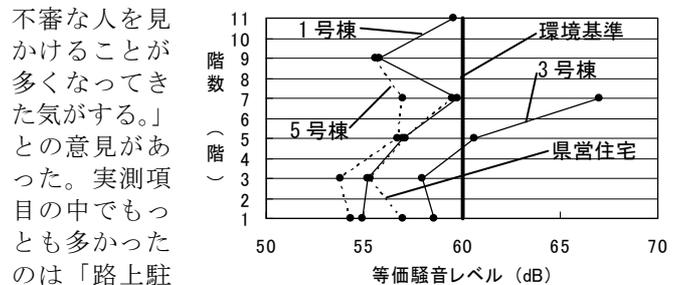


図6 棟・階別における等価騒音レベル

不審な人を見かけることが多くなってきた気がする。」との意見があった。実測項目の中でもっとも多かったのは「路上駐車がなく」であり、続いて「暴走行為による騒音がなくなって欲しい」「空気がきれいになって欲しい」「街灯が増えて欲しい」であり「酔のにおいがなくなって欲しい」は全体で15位であった。

4. 騒音実測調査

06年1月12日(水)11:00～14:40に同自治会地区において住民と共同で騒音実測調査を実施した。実測には15名の住民が参加した。1号棟の1・3・5・7・9・11階と3号棟の1・3・5・7階と5号棟の1・3・5・7・9階と県営住宅の1・3・5・7階の計19地点の15分間の等価騒音レベルを計測した。

図5に各棟の騒音に対する住民意識、図6に棟・階別における等価騒音レベルを示す。1号棟、5号棟、県営住宅は環境基準を上回る地点がなく、おおむね54～60dBである。3号棟は全体的に高い値を示したが、これはアンケート結果で3号棟が「とてもうるさい」と答えた住民の意見と一致した。特に、7階が67dBと全体の中で一番高い値を示したが、計測中に近隣の消防署で訓練が行われていたことが影響していると考えられる。日常生活では自動車による騒音よりも消防署の訓練やサイレンの音のように、突発的な音に対してうるさいと感じている可能性がある。

5. まとめ

自治会・町会を選定するにあたって、ヒアリング調査を行うことが重要であるとわかった。実際に現地では話を聞くことで応募用紙以上の情報が手に入り、自治会・町会の選出の際に役立てることができた。今後、より綿密な住環境調査を行うためには、住環境を改善することに意欲のある自治会・町会と早い時期から接触することが求められる。プロジェクト応募にいたらなかった地区で「来年度の住快環プロジェクトに参加したい」とアンケートに答えた自治会・町会に連絡を取ることが最も良い手段だと考えられる。

本研究は、科学研究費補助金基盤研究(C)「実測調査に基づく住民主導の地区住環境づくりのための支援システムの構築」(研究代表者:三浦昌生)によるものである。

*1 芝浦工業大学大学院修士課程

*2 オネスト (当時芝浦工業大学学部長)

*3 芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 教授 工博

Graduate Student, Shibaura Institute of Technology

Honest

Prof., Dept. of Architecture and Environment Systems, Shibaura Institute of Technology, Dr.Eng